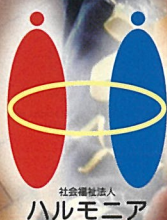


社会福祉法人ハルモニアは、みんなが集い、地域の中で生き生きと暮らし、すてきなハーモニーを奏でる場所です

HARMONIA



ありがとうの10年 地域とともに



社会福祉法人
ハルモニア

ハルモニア10年の歩みと今後の展開	2	運動を通じて知るコミュニケーションの大切さ	10
新たな地域の担い手として	5	「自分のことが好き」と感じることができる支援を	11
かわりが社会を変える	6	私の暮らし方	12
社会参加を求めて	7	やってみないとわからない	13
誰もが笑顔になれるお店をめざして	8	みんないっしょ、インクルージョンへの挑戦	14・15

ハルモニア

10年のあゆみ



ハルモニア本館



「コーンズ」「ビーンズ」



ガゼルの森 安全折願



ガゼルの森



ハルモニア ガトーゴシェ BiVi 店



「アドニス」

平成 16 年 3 月 法人設立

平成 17 年 4 月

知的障害者の方の働く場所として

- 知的障害者通所更正施設「エンゼルハート」事業開始（定員 30 名）
- 知的障害者授産施設「SELP あおば」事業開始（定員 30 名）
- 総合相談事業 地域支援センター「ばれっと」障害者就業・生活支援ミニセンター事業開始（登録者 123 名）

平成 17 年 12 月 小さいお子さんからお年寄りまで

- 居宅介護事業「みと」事業開始

平成 18 年 4 月 暮らしの場所と生活の場所づくり

- 4 月…グループホーム「キャメロット」事業開始
- 7 月…高齢者訪問介護・居宅介護支援・介護予防訪問介護事業開始
- 9 月…藤枝市ライフサポート短期入所事業開始

平成 19 年 4 月 障害者自立支援法へ移行

- 平成 19 年 4 月 生活介護、自立訓練「エンゼルハート」事業開始（定員 48 名）就労移行支援「あおば」事業開始（定員 40 名）「ばれっと」障害者就業・生活支援センター事業開始 グループホーム・ケアホーム「コーンズ」「ビーンズ」事業開始
- 平成 20 年 12 月 高齢者訪問介護・居宅介護支援・介護予防訪問介護事業廃止
- 平成 21 年 4 月 就労継続支援 B 型「あかね」事業開始（定員 40 名）知的障害児通園施設「あかしや学園」藤枝市より移管
- 平成 22 年 3 月 藤枝市ライフサポート短期入所事業廃止 4 月…自立訓練（生活訓練）「あおば」事業開始（定員 10 名）8 月…カフェ「オリーブ」BiVi にて開店

平成 23 年 4 月 地域とハルモニアをつなぐ

- 「地域交流センター」誕生
- 西洋菓子「ガトーゴシェ」合併

平成 24 年 4 月 インクルーシブ保育の具現化 始動開始

- 「城南保育園」…藤枝市より移管⇒「ガゼルの森保育部」
- 知的障害児通園施設「あかしや学園」…指定障害児通所支援事業「ガゼルの森支援部」
- ガゼルの森…地域子育て支援事業開始 一時預かり事業開始
- ばれっと…指定特定相談支援事業、指定一般相談支援事業開始
- 就労継続支援 B 型「ありす」事業開始（定員 20 名）

平成 25 年 2 月 ご利用者とそのご家族、地域のニーズに応じて

- ハルモニアガトーゴシェ BiVi 店閉店 ハルモニアガトーゴシェ「オーレ店」開店 4 月…グループホーム「アドニス」新設
- ガゼルの森 児童発達支援センター事業開始 障害児相談支援事業開始 保育所等訪問支援事業開始
- 平成 27 年 3 月 就労移行支援、自立訓練「あおば」事業廃止

※平成 27 年度の事業組織図は P4 に表示

社会福祉法人ハルモニア

理事長

大長 昭子

Daicho Akiko

- 焼津市生まれ
- 38歳から福祉活動開始（神奈川県相模原市）
- 昭和57年 障害者地域作業所「すずらの家」設立
- 平成3年 社会福祉法人「すずらの会」設立（藤枝市）
- 平成16年 社会福祉法人「ハルモニア」設立



キーワードは 自立の支援 啓発活動 ソーシャルアクション

誰もが安心して暮らせる街になるために
ハルモニア10年の歩みと今後の展開

ハルモニアの運営を始めてから10年が経ちました。

無事ここまで来ることができたのは、ご利用者とそのご家族、地域と関係者の皆様のご理解、暖かいご支援のおかげと、法人役員、職員一同深く感謝いたしております。

当法人は発足以来ご利用者の皆様が、安心して地域生活ができる様に良質なサービスの提供と新たなサービスづくりを心掛けてまいりました。

また運営に際しましては、法人理念と基本方針に基づいた自立の支援、障害についての啓発活動、ソーシャルアクションを三つのキーワードとして行動してきました。

障害の状況は一人ひとり異なりますが、今後もご本人とご家族から施設利用の目的や、ご要望を伺い、ご本人の可能性を信じ、ご家族と施設が両輪となって将来を見据えた支援を行っていきたく思っております。

設立以来10年の節目を迎えましたこの折に、ハルモニア誕生の経緯とこの間の取組みを振り返り、今後の法人経営について述べてさせていただきます。

平成14年藤枝市の「たんぼの会」で講演したことがきっかけとなり、特別支援学校のご家族と出会ったことが最初でした。

その頃は、神奈川県相模原市で社会福祉法人を設立し、「障害のある人が地域で暮らす」をモットーに様々な福祉サービスを提供してまいりました。両親の住む藤枝の地で、学校を卒業しても行き場のない多くの障害のある人達とご家族福祉のために土地を提供していただいた篤志家と

も出会い、法人設立に動きました。

今日まで、サービスの範囲は三障害へと広がり、それぞれのニーズに合った運営をめざし、事業の再構築にも取り組んでまいりました。また社会福祉法人に社会貢献活動が求められるようになり、障害の有無にかかわらず誰もが安心して暮らせる街づくりを目指す地域交流センターの立ち上げ、総合相談事業、公民館・町内会のお祭りやイベントづくり、保護観察者の受入れ、企業の新入社員研修なども行ってきました。

法人経営の面では、福祉サービスの品質管理やご利用者・職員の安全管理のために一般企業からの人材登用、年齢や勤続年数を問わず業績本位の年俸制の採用で、働き甲斐がある職場をめざしてきました。職員の福利厚生面では、年2回の連続5日間のリフレッシュ休暇制、民間リゾート施設を利用できる契約なども実施し、事務的な業務は、サービス向上のために可能な限り外部に委託することを施策としてきました。

今後の取組みといたしましては、設立10周年の記念事業として研修会を実施いたします。

ニーズがある事業については継続すると共に、必要に応じて再構築し、法人の事業が必要とされる地域への事業展開に着手いたします。また、サービスの内容に応じた社会福祉法人、NPO法人、株式会社を使い分け、フレキシビリティの高い経営に努めてまいります。

社会福祉法人の規制改革が進む中、理事会を中心とした法人組織の強化、職員の育成等について検討を進めていく所存でございますので、今後とも皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

地域交流センターの取組み

【地域交流センター会議】

地域の方々にご参加頂き、毎月1回開催

【ウェルフェア塾】.....

障害のあるなしに関わらず、体験プログラムを通してお互いを知り合う。年4回（昨年度延べ600名のハルモニアで利用者と地域の方々に参加）

【ハルモニア広報誌】年2回発行（9月・3月）

【地域の祭りへの参加】5ヶ所

【見学者・来訪者対応】延べ500人

【外部研修の受入れ】新入社員研修等の受入れ



ハルモニア 地域交流センター

平成23年4月にスタート。ハルモニア理念である「障害のあるなしに関わらず、誰もがバリアフリーな生活を営むための環境づくり」を目指して、様々な広報啓発活動を行っている。（構成メンバーは職員5名、地域実践者3名）

地域交流センター

新たな地域の担い手として

急激な日本社会の変化

日本は今後、世界のどの国も経験したことのない勢いで少子高齢化と人口減少が同時に進むと言われています。日本の総人口は、2008年の1億2808万人をピークに、2060年には8674万人になるとの予測が立てられています。また、激しい人口減少によって、人口を維持できず消滅する可能性のある自治体が、全国で800を超えるという予測もあるほどです。地域機能が急激に衰退することが懸念されています。

新たな地域づくりへ

このような時代に、私たちは社会福祉法人として何を成すべきでしょうか。ハルモニアは藤枝市青葉町に誕生して10年が経ちます。ご利用者、ご家族、そして地域の方々に受け入れていただき、ご理解を得ながらこれまで運営することができたと思っています。

地域交流センターの役割 社会に正しい障害の理解を

地域の衰退が想定される将来、ハルモニアは社会資源の一つとして、地域課題を共有し、協同していくことが必要ではないでしょうか。新たな地域社会の一端を担っていくことが求められていると感じています。

平成18年に障害者自立支援法（現在の障害者総合支援法）が制定され、平成26年2月に障害者権利条約が批准されるなど、法律や制度は大きく様変わりをしました。では、障害者が暮らしやすい社会になったと言えるでしょうか。変わりはしましたが、その答えの大部分が「NO」であると思います。障害を理由にした差別や偏見はまだまだ散見されます。障害者を取り巻く様々な現状や課題を地域に向けて発信し続けることにより、正しい障害の理解、社会の課題を訴えていくことが大切だと思います。

地域との結びつきは 人と人との結びつき

「地域との連携・結びつき」という言葉をよく耳にしますが、実際どうやってこの言葉を実現していくのでしょうか。地域交流センターでは、この課題を解決すべく、大切にしていることがあります。第一に、ご利用者の方々と一緒に地域へ出向くこと。地域で活躍する障害者の姿やその人柄とのふれあいを通じて、障害者の存在を訴えていくことが大切であると思います。もう一つ大切なことは、地域の方々との関わり、対話を継続すること。「今年出会った方々に来年も会える」「いつも話ができて」「こうした実践を積み重ねていくことで、お互いが安心して信頼できる関係性を構築することができるのではないのでしょうか。」

地域交流センターにご参加いただいている地域の方々



南條様

藤枝保護司会 保護観察中の方の社会復帰を支援するかたわら、ハルモニアの就労支援先の開拓等にご協力いただいている。



宮澤様

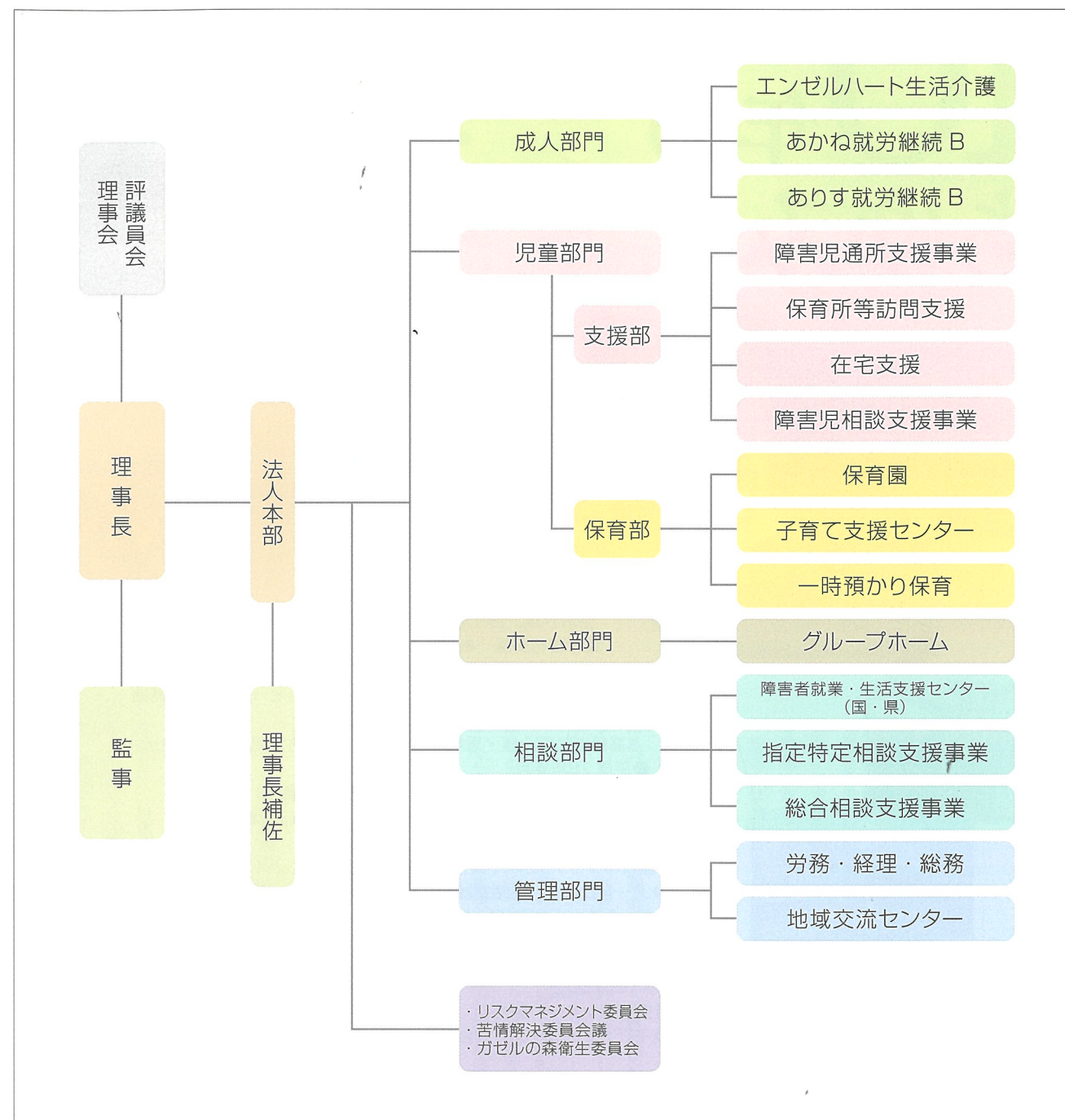
地域実践者 ボランティアとしてハルモニアの活動にご協力いただいている。



小島様

ハルモニア後援会役員として地域交流センターに参加していただいている。

平成27年度 社会福祉法人 ハルモニア 組織図



新年度の取組み

重点施策 ①より質の高いサービスの提供 ②ご利用者が社会の一員として暮らすための環境整備

成人部門

- ・ご利用者の視点に立ち、一人ひとりの意向を尊重した支援の提供
- ・事業所の特色を活かした支援体制を構築し、ご利用者の成長を十分に引き出すための支援・機会を提供

児童部門

- ・インクルージョンに向けた取組みの充実と拡大
- ・誰もが安心して利用できる子育ての環境づくりと地域のニーズに応じた子育て支援を提供

ホーム部門

- ・ご利用者が自立し安心して暮らせるための環境整備
- ・ご利用者の地域生活を支援するために地域との連携を深める

相談部門

- ・障害のある方のニーズを汲み取り、必要とする福祉サービスを安心して利用できる環境づくり
- ・障害者の就労先や生活場面に密着した積極的な就労支援の展開

管理部門

- ・4部門の運営を管理し、各部門の適正な運営体制をサポート
- ・職員の定着率向上を図り、働きがいのある職場づくりを行う

かわりが 社会を変える

interview 01



澤田 新太さん

父： 祐一さん

母： 美代子さん

共生社会の実現に向けて 関わりが社会を変える

母 新太が産まれてまもなく、道端で障害のある方に突然声を掛けられたことがあります。当時はそうした方と接した経験が全くなかったのですが、戸惑ったことを今でも覚えています。新太の障害が分かり、成長するにつれて「地域の子どもたちの中で育てて欲しい」という気持ちが強くなりました。障害のある方と健常者が共生できる社会に変えていく必要性を感じ、自宅から普通学級に通いました。この子を通わせることが、本人だけでなく周囲に意味のあることだと思いました。

職 ハルモニア理念にも通じるものがあるかと思っています。共生社会を築くモデルとして、これからは本人を取り巻く環境を、社会レベルで具体的に捉えることが重要と感じます。

父 「皆が豊かで協力し合う社会」ハルモニアのロゴはこのように願いを込めて作りしました。共生社会は独りよがりでは実現できません。障害のある方の可能性を社会がポジティブに捉えるべきだと思います。

地域と障害のある当事者が自然と繋がり、それぞれの役割が確立する。そして浸透し、それぞれの関わりが、いつしか大きなコミュニティとなり本当の意味で共生社会ができていく。ハルモニアを取り組みがモデルとなり、地域と一体の施設が増えるといいですね。

グループホーム、 通所、移動支援 自立に向けた取り組み

母 当時を振り返ると自然とインクルージョンができていたと感じます。友達にも恵まれ、本人も本当に楽しそうな表情で毎日学校に通っていました。

父 誰もが経験を通じて成長していきます。閉鎖的な環境の中で生活を送るより、地域で様々な体験を通じて成長していくことが必要です。そして、本人と共に地域も成長していくことが共生社会の実現に必要なことではないでしょうか。

父 ハルモニアの設立前にデンマークに行く機会があり、そこで感銘を受けました。『施設だけでなく、社会が人権を尊重した捉え方』をしていました。成人を迎えた方はグループホームに入り、地域の中で生活をします。グループホームの質が高く、入居者の表情からは心の豊かさを感じられました。

interview 02

社会参加を求めて 笑顔は宝物

社会参加を願い 二人三脚で歩んだ軌跡

私の役割と本人の努力

誰にも迷惑かけること無く自分の人生を送ってもらいたいと思います。そのためのルールを敷くことが私の役割であり、経験を通じて適応していくことが本人の頑張りと考えています。「笑顔を絶やさないこと」まだ

まだ手さぐりですが、色々な経験が必要不可欠だと思います。大変なこともあります。本人らしさを皆にも知ってもらいたいです。

多様な形での社会参加 地域住民との繋がり

昔にくらべて福祉サービスの幅が広がりました。本人のことを考えるととても幸せなことだと思えます。また、近所の方にも本人の存在が浸透しました。気持ちよく挨拶を交わし、夏祭りや旅行にも参加させて頂くことができ、本人のライフステージがイメージできるようになってきました。

ハルモニアの皆様、福祉サービスを提供してくださる皆様、地域の皆様、様々なきっかけで実紗と関わり、多くの経験をさせて頂いていることを心から感謝しています。これからも宜しくお願いします。

ハルモニア設立10年

「感謝」の言葉に尽きます

親亡き後を考え、グループホームを利用しながら、地域で自立した生活を目指していきたいです。

父 親子の関係に「相互依存」という言葉がありますが、家庭の中に原因があると思います。家での生活は本人の全てを知ることができず、親から離れた場所での学習する機会を失ってしまっています。本人の幸せを願うのであれば、親の気持ちで振り回してはいけません。早い段階から社会に身を置いてきたことで私たちの想像以上に早く本人が環境に適応できたのだと思います。

職 『自立を目指す環境』『社会的経験』『地域との繋がり』

多様な形で本人をとりまく多角的支援があつて本人の自立と共生社会が実現できると思います。

父 様々な方の協力があり、ハルモニアは10年で大きな木に成長したと思います。これからは、皆でハルモニアの理念を共有し、地域と連携のとれた素晴らしい木に育てていかなくてはなりません。そのためにハルモニアの一員として、また保護者として協力していきたいと思っています。

障害を認知してから全てを自分一人で抱え込み、実紗の笑顔に伝えることができないほど先が見えない日々を送っていました。小さい頃は、社会の一員として認めてもらいたい一心で色々な場所に足を運びましたが、受け入れ先がなく社会からの疎外感を感じていました。今振り返ると私の気持ちに余裕が無かったのだと思います。

ハルモニアとの出会いがきっかけとなり、気持ちにゆとりができました。何より本人の居場所ができてほつとしたこと、社会参加への第一歩をハルモニアの皆様が叶えてくれて本当に感謝しています。恥ずかしながら本人についてはまだまだ分からないことだらけ。それでも本人の意思を尊重しながら、少しずつ向き合えるようになりました。今ではお互い笑顔で毎日を過ごすことができるようになり、幸せを感じています。



増田 実紗さん(右)・和美さん(左)



地域の中のレストラン ハルモニア ガトーゴーシェ

藤枝市青葉町にハルモニアが経営するハルモニア ガトーゴーシェ本店があります。本格イタリアンのランチから、パン・ケーキ・焼き菓子がおおすすめのレストラン。地域の皆様から愛されるレストランを目指しています。皆様のお越しをお待ちしておりますので、どうぞお気軽にお越しください。

●イタリアンランチ **1000円**
 (メイン料理 + サラダ + スープ + デザート)
 ※メイン料理は下記A～Cよりお選びいただけます

メイン料理
 A. 創作パスタ
 B. 創作イタリアン
 C. 焼ききたてピザ

AとBは
 日替わりメニュー
 となっております

※イタリアンランチに+200円で
 ドリンクをお付けすることができます

●ケーキセット..... **500円**
 ●ハルモニアコーヒー..... **350円**
 ●シフォンケーキ..... **800円** [1ホール]

是非
 お試し
 ください

そのほかハルモニアの焼ききたて
 パン各種、ケーキもございます

●焼き菓子・ラスク・フロランタンなど贈答用の詰め合わせ等のご注文も
 お受けいたします。お気軽にお問い合わせください。

ハルモニア・ガトーゴーシェ本店 ご予約 054-636-5577
 〒426-0066 藤枝市青葉町2-11-1 ●営業時間 10:00～15:30(定休/日・月曜日)

※平成27年4月から一部価格変更をいたしました。



成人部門 ハルモニア
 ガトーゴーシェ本店

大畑 英祐
 Ohata Eisuke

ハルモニア ガトーゴーシェ本店に所属。「これからもレストランで働きたいです、とてもやりがいのある仕事です。」と熱い想いを語ってくれました。

「大畑さんは性格が真面目で頼んだ仕事は責任を持って取り組んでくれます。とても頼りにしています。」と職員からの信頼も厚く、

職場での
 コミュニケーションを
 大切に

そんな英祐さんが大切にしていることは、お客様への応対。接客の仕事は、注文を伺ったり食器を下げたりと、タイミングを見計らう大変な仕事。「敬語で話すことが難しいんです。」とお客様の表情を伺いながら、接客マナーに気を付けて対応しています。

その他、販売用のパンや惣菜の数を確認したり、レジを担当したり、仕事内容は多岐に渡ります。

仕事として責任をもって

障害はあるけれど
 ～自分のことは自分で～

大畑さんは毎日徒歩でハルモニア ガトーゴーシェ本店に通っています。「歩くことで体力をつけているんです。」と語る英祐さんは、通いだけで往復1時間、歩数にする一日に1万歩以上歩くというからすごいですね！書類のコピーを取る間にスクワットをするなど、自分の身体のことを常に考えています。

お客様があつての仕事

「レストランから見える景色も楽しんで欲しいです。」と食事以外のことも考えている英祐さん。「のどかな雰囲気を感じて、お食事をいただいてほしい。」とおお客様への心くばりを大切にしています。

仕事の中で一番うれしいと感じるときは、お客様から「おいしかった」「ありがとつ」という声を掛けていただいたとき。お客様がレストランでの食事を通して楽しいひと時を過ごしていただきたいと、心から思っています。



Interview 03

成人部門 ハルモニア
 ガトーゴーシェ
 オーレ店

生活支援員・保育士

野中 裕乃

Nonaka Hirono

ハルモニア ガトーゴーシェ オーレ店
 にて、ご利用者の支援を行いながら、
 接客や店舗運営を行っている。

誰もが笑顔になれる
 そんなお店を目指して

わが子の障害 突然の宣告

「お子さんは重度の先天性心臓病です。」健康で生まれてくるのが当たり前と思っていた3人目の出産の翌日、医師から聞かされた言葉。その後の検査で知的障害等も見つかり、私は重複障害児の母になりました。聞いたことも無い病名を必死で調べ、情報を得るために患者会に入り、少しずつ前に進む日々でした。苦しくなるから泣かせてはいけな、感染が危ないから外に極力出ない、感覚が危ないから外に極力出ない……。障害のある子どもを育てることは想像以上に大変なことでした。

大きな心臓手術を経て一命を取り留め、初めて通えるようになった場所が、ハルモニアの施設でした。

新たな想い
 ～共に歩もう～

ハルモニアの児童施設に通い始め自分自身の意識も少しずつ変化がみられました。優しくて熱心な先生方、楽しそうなお子さんも、そして何よりも温かい雰囲気。私はいつかここで働きたい、支援をしたい、次第にそう思うようになっていました。

そしてご縁を頂き、現在はハルモニア ガトーゴーシェ オーレ店で障害のある方々と一緒に働いています。

店舗ではパンや洋菓子の販売、ランチやコーヒー等の提供をさせていただいています。ご利用者ができることを、可能な限り引き出すように心がけています。そして更にできることは何か、それをどんな風に伝えたら理解しやすいか、日々想いを巡らせながら支援をしています。

生き生きと接客をするご利用者を見たお客様が、笑顔になって帰られる姿を見る度に、とても嬉しい気持ちになります。支援員である私達が、障害者の方々と一緒に笑顔で働くことそのものが、大きな支援であり、周囲への大きな理解に繋がるのではないかと信じています。

我が子の将来像と重ね合わせながら、より良い働き場所となるように。



ハルモニア ガトーゴーシェ オーレ店 (オーレ藤枝 3F)
 営業時間 10:00～16:00 (定休/日・月曜日)

**発達段階を捉えた支援
～発達検査の必要性～**

ガゼルの森支援部では、子どもたち一人ひとりに個別支援計画を作成し、支援を行っています。支援の設計図とも言うべき個別支援計画の作成には、発達段階を正確に捉える必要があり、発達検査が一つの指標として用いられます。発達検査は、子どもたちの認知・言語・社会性などにおける概念理解や、運動面の発達段階を客観的な視点から捉えることが可能です。検査結果を読み解き、どのような支援が必要であるのか、支援の方向性を導き出していきます。

また、発達検査と共に重要となってくるのが、普段子どもたちを支援しているクラス職員による行動観察です。この行動観察から見えてきた子どもたちの様子や検査結果を総合的に合わせ、何度も議論、検討した結果、ようやく個別支援計画が出来上がります。発達段階を捉えた支援は、子どもの「できた」という経験を増やすことに繋がり、自己肯定感を育んでいきます。また、自分のことを好きになり、自信を持って取り組むことで、様々な活動に取り組み意欲・主体性を高めていくことができます。

**カウンセリング
～遠慮せずに本音を
言える場所～**

悩みや整理できない気持ちを抱えているご利用者に対して、定期的にカウンセリングを実施しています。カウンセリングの目的は、カウンセラーに悩みを打ち明けたり、気持ちを一緒に整理したりすることで精神的な安定を図ることです。カウンセリングの時間はホッと一息つける普段の自分を安心して振り返ることができる時間になるような心がけています。

秘密が守られた場所で安心して本音を言えることにより、ご利用者の表情が和らぎます。カウンセリング中にイライラしてしまったり、悲しくなったことなどを思い出して話す方もいますが、そうした気持ちを抱いたこと自体、「悪かった」と感じてしまうことがあります。このような時は、マイナスの感情を抱くことが悪いことではないと伝え、イライラした時にどうするか、悲しくなった時にどうするかが大切である、と伝えるようにしています。また、適切な方法で気持ちを落ち着けることができるのであれば、その方

リズム体操
講師

望月千晶

Mochizuki Chiaki

ハルモニア成人部門生活介護事業
のご利用者にプログラムを提供
し、体を動かす大切さや楽しさを
伝える。

運動を通じて知る コミュニケーション の大切さ

**皆で楽しく健康な
毎日をおくろう!!**

体は動かしていなければ自然と筋力は低下してしまうものです。音楽やボール等を活用し、五感を刺激して、楽しく運動した結果、姿勢の改善や、稼動域が広がることを目的としたプログラム提供を行っています。

普段は高齢の方や、運動不足を改善したい健康者の方を対象に活動をしています。

**ハルモニアの皆様と
出会って1年、ご利用者
の変化が私の元気に**

初めは本当に緊張しました。(笑)
ご利用者の皆様も同じ心境だったと思います。

参加者全員を対象とした活動の中で、ご利用者の反応は十人十色。様々なツールを用いて呼びかけることにより反応を示してくれます。一人一人の意志を大切にすることで、全員が色々な形で活動に参加してくれるようになりました。

**楽しいという感情は
みんな同じ**

皆様とても素直で笑顔が輝いています。「楽しい」「嬉しい」それぞれ感じ方は違いますが、障害のある方も健康者も同じだと思います。

何よりご利用者に運動プログラムを提供することで私が元気をもらっています。

**多様な形で
参加率100%を
目指します!!**

全員が笑顔で活動に参加し、自然と体力がつけば嬉しく思います。車椅子のご利用者への個別プログラムも組んでいきたいです。

「何を伝えようとしているのか?」発信をしっかりとくみ取り、皆様と充実した時間を過ごしたいです。

関わりで視野が広がる

最近では、少しずつ地域の中で障害のある方を見かけるようになりました。自身の視点や考え方が変わったのかもしれない。活動を通じて元気をもらい、毎日充実した日々を送れているのも皆様のおかげと感じています。私もそうですが、『関わり』がこれからの地域社会には必要不可欠だと思います。誰もが笑顔で暮らせる社会になる様に少しでも貢献できればと思います。

**ハルモニアの皆様と
出会えて・・・**

ハルモニアでの活動が私にとっての心が洗われる時間となっています。



す。関わるきっかけさえあれば、視野が広がり有意義な毎日を送ることができます。自信を持って皆様に伝えたいですね。

施設の枠をこえて、これからも地域と障害のある方との架け橋となるような素敵な環境を作ってください。本当にハルモニアに出会えてよかったです。これからもよろしくお願いします。

『自分のことが好き』 と感ずることが出来る支援を目指して

法が間違っていないことを伝えていきます。そう伝えるだけで表情が柔らかくなる方も少なくありません。

カウンセリングの最後には、今の自分についてどう感じるかを尋ねています。日々の自分を振り返り、自分の悪い面だけではなく、頑張っている面や、良い面をもう一度確認します。

カウンセリングは魔法ではありません。カウンセリングを受けたからと言って、全ての悩みが解決したり、「自分なんてダメだ。」と感じている人がすぐに自分を大好きになったりするわけではないと思います。しかし、カウンセリングを受けることによって「こんな自分も悪くない。」「自分にも良い所がある。」「自分のことが好きになった。」といったことを少しでも感ずることができればと考えています。

児童部門
ガゼルの森支援部

臨床心理士

山口千紘

Yamaguchi Chihiro

ガゼルの森支援部にてクラス担任として子どもたちの支援を行うかたわら、園児の発達検査を担当。また、成人部門のご利用者を対象としたカウンセリングを月1回実施している。

だめならだめでいい。 やってみないと わからない

藤枝市民大洲温水プール
職員

津島 啓佑

Tsushima Keisuke

ハルモニア第1期生。開所から4年ほど利用したのち“就労移行支援事業あおば”を経て藤枝市民大洲温水プールに就職。平成27年3月で7年目となる。水泳が得意で日本選手権など多くの受賞歴がある。スポーツ観戦に出かけるのが大好き。

◆職場から
〈藤枝市民大洲温水プール〉
中西征也さん・森谷沙織さん

津島君はとてもいい笑顔で笑うんですよ

職場では初めての障害者雇用。仕事としてだけではなく、津島さんが水泳に親しむ姿をスイミング教室の子どもたちに知ってほしいという思いもありました。入社した頃は「空いた時間にプールに入れることが楽しみ!」という様子も見られましたが、今は担当の受付業務を自分の仕事として責任を持ち、働いてくれています。職場では津島さんのつまずきをその都度共有し、書式やマニュアルを作り変えたり職員の配置を見直したりして環境を整えてきました。また必ず月1回は仕事の相談だけでなく「大人とは、自立とは・」といった話もしています。

初めはお客様の顔も見ずに接客

自立に向けての一步

養護学校高等部に進むときに先生のアドバイスもあり「自立に向けての1歩」と寄宿舎生活を選びました。入寮当初は体調を崩す等不安定なこともあり「この子に出

産時7か月の早産、生まれて4か月は保育器の中、脳性マヒではと言われたが「リハビリで治る」と思っていました。保育園に通わせたいという思いがあり、何度も障害児施設へ相談に行きましたが、車いすの障害児を受け入れた前例がないという理由ですぐには許可が下りませんでした。色々な方のサポートによって、卒園前の1月に念願の保育園へ通う許可が下りたんです。わずか3か月ではありましたが、地域の子どもたちとの園生活が過ごせたことは本当に良かった。

◆津島さん、お母さんのインタビュー 保育園が 受け入れてくれた

し、お叱りを受けることもありましたが、5年経つと顔なじみの方も増え、声をかけていただくことも多くなりました。お客様と楽しそうに話したり笑ったりする姿を見ると、すっかり「看板」のような存在になっていると感じます。

地域にもっと出ていく

ハルモニアには4年ほど通いました。色々な作業をやらせてもらい「こんなこともやるんだ」と驚いたこともあります。車いすでは無理・と決めずに何でもチャレンジする姿を見て、本人の能力や可能性に正直びっくりしました。就職も「いざれできれば・」と考えてはいましたが、日頃からプールを利用していたこともあって就職に繋がるのができ、本当に感謝しています。

心配なのはやはり将来のこと。「自立」を考え「だめならだめでいい。まずはやらせてみる。」という思いでやってきました。それも、周囲の理解や協力があったからこそです。これからも周りの意見を聞きながら、まずは挑戦してほしい。家族としても地域にもっと出て行かせなければいけないと感じています。存在を知らなければ考えられないし、様々なサービスも使わなければ無くなります。障害者が暮らしやすい地域を作っていくきっかけとして、「ここに暮ら



左から森谷さん、ご本人、中西さん

今、一番の楽しみはスポーツ観戦。野球、バスケット、相撲などスポーツなら何でも好きです。試合の日程確認、チケット注文、行き方の組立てなどは全て自分で調べます。ヘルパーさん等家族以外の人と行動できるのが嬉しい。最近では助けを求めたときに係の人の対応に障害者への理解を感じることが多くなりました。職場では失敗しながらもその都度色々な助言をもらい少し自信がついてきました。仕事に責任を持ち長く勤められるよう頑張りたいです。「自立」と言われるとまだ不安もありますが、将来は仲間と楽しく生活していきたいと考えています。

◆津島さんご本人のインタビュー 好きなことをやり 仲間と楽しく暮らしたい

している」ということを知ってもらう努力をしなければならなと思っています。

私の暮らし方

グループホームで 暮らすこととは?

「川根（実家）に仕事がなく、藤枝に出てくることを勧められたのがきっかけでした。」岡下さんはホームに住むきっかけを話してくれました。「最初一人の時、救急車の音で不安になった。誰かがいてくれることで安心できた。それは今も変わらない。」ホームでは、世話人や他のメンバーなど様々な人との関わりがあり、自分

とは違う人を受け入れていくことが必要となります。「世話人さんが手伝ってくれた時は嬉しかった。宗教（本人が入信している）の相談をした時、自分とは違う宗教観を持っている人がいるんだなと、びっくりしてすごく教訓になった。」

地域の中で暮らすことが本人のアイデンティティの確立につながっています。



グループホームキャメロット
株式会社静鉄ストア駿河台店 惣菜部門
岡下 和恵さん

一人の時は、救急車の音に不安になった。誰かがいてくれることで、安心できた。

世話人：
今澤敬子さん



笑顔が素敵な方です。何事にも一生懸命に取り組んでくれます。

岡下さんは、16歳から働き始めました。静鉄ストアには、22歳から勤め、8年が経過しました。「得意料理は鶏のから揚げ。料理が好きなので自分から惣菜部門を望んだ。最初は体調を壊したりして大変だった。障害があるから、迷惑をかけていると思うけど、同部門のHさんやSさんやお店の人全員にフォローしてもらっている。皆さんありがとうございます。」と、職場の仲間への感謝や気配りを忘れない。材料準備に始まり、料理、パック、値付け、品出しと、てきぱきと働く姿からは、彼女の障害は感じられません。静鉄ストアの大事な社員の一人として皆から認められる存在となっています。

16歳から働き始め 静鉄ストアの社員に



▲お料理は得意です!



▲ホームの方とパチリ☆



▲今日もがんばるゾ!!



▲職場の上司や仲間と♪



料理が好きなので自分から惣菜部門を希望。最初はきつかったけど、皆さんにフォローしてもらっています。長く勤めたいです。



ガゼルの森『みんないっしょ』 インクルージョンへの挑戦

ガゼルの森は今年で
開園三年を迎えます

子どもたちの日常的な関わりを重視し、昼食を一緒に食べたり、朝の会と一緒にしたりと、「インクルージョン」を合言葉に毎日実践を積み重ねています。インクルージョンに向けた取組みに答えはなく、「やってみて考える」「実践を積み上げながらゴールを目指す」方式で進めています。実践を進める中で大切なことは、インクルージョンの意味について園全体で共通認識を図ること。全ての職員がインクルージョンについてイメージを共有し、一つの方向へ進んでいくことが求められます。理論・知識としてこの言葉の意味を知ることとはとても重要ですが、それ以上に、日々の子どもたちやその家族の姿を通して理解していくことが大切であると感じています。今回は2つのエピソードから、この難解な「インクルージョン」という言葉の意味に少しだけ迫ってみたいと思います。

ありのままを受け入れること
〜わが子からのメッセージ〜

「子どもの障害を受け入れることは本当に難しく、苦しかった」と話してくれたAさんのご家族。子どもでできないことばかりが気になり、障害を持って生まれてきたことに罪悪感を抱き、毎日のように自分を責めては涙を流していたそうです。

しかし、ある時、園でのわが子の姿を見てハッと気づかされたことがあったと言います。それは、園庭で三輪車に乗って遊ぶ姿を見た時のこと。はじめは三輪車の後部席に乗せてもらっていたAさんが、次に自分が漕ぎたいと訴え、前に乗って漕ぎ始めました。身体に障害があるため、「どうなるんだろう、前に進めるだろうか」と心配していると、周りから子どもたちが集まってきて、後ろから三輪車をそっと押してあげていたそうです。Aさんは後ろを振り返り、友だちに手を振りながら満面の笑みで応えていました。その光景を見て「わが子はわが子のまま

でいいんだ。自分自身が子どものありのままを受け入れられなかったんだ。」という心に気づき、そのとき以来、心に重くのしかかっていたものがフッと軽くなったそうです。

子どもたちが語りかける
インクルージョンの姿

卒園式が間近になると、環境が変化することへの不安から不安定になる子どもがいたりします。支援部に通うBさんもこうした不安を敏感に感じ取る一人でした。3月も中旬を過ぎ、卒園式の練習が佳境を迎えるころ、Bさんの不安定さはより一層顕著になり、式の練習中に泣いてしまい、徐々に練習に参加する時間が少なくなっていました。練習に誘っても拒否をするようになり、職員も頭を抱える日々が続く中、Bさんを変えた出来事がありました。Bさんには大好きな友だちがいました。散歩の際には一緒に手をつないだり、別れるときにはハイタッチをしたりと、言葉での関わりは多く

私たちの使命

子どもたちの
こころを育む

インクルージョンという英語は、「包み込む」「内包する」というその言葉の持つ広い概念ゆえに、「これだ！」という適切な日本語が見当たりません。「共生社会」という言葉で置き換えられることが多いものの、「子どもたちにとっての共生社会ってなんだろう？」と考えると、言葉の不自然さに首をかしげたりします。

ガゼルの森は、この難解な言葉の意味を明確に理念に謳っています。ガゼルの森が目指すべきインクルージョンとは、子どもたち一人ひとりが、お互いの



ありませんでしたが、お互いにお互いのことを気にかける様子が見られていました。Bさんが練習に参加したもののすぐに不安定になり退席したときのこと。練習が終わり、教室に戻る際にBさんの姿を見た友だちがやさしく声をかけてハグをしてくれました。このことがきっかけとなり、以後、Bさんは友だちの存在を励みに練習に参加することができるようになりました。そして卒園式本番では立派に振る舞い、周囲の感動を誘いました。

子どもたちの中に「障害がある」「障害がない」という言葉は一切存在しません。一緒に遊ぶ中で、「困った子がいれば手を差し伸べる」「自分にできそうになる姿を見て勇気を出しチャレンジしてみる」これは、子どもにとってはごく自然なことで、「障害があるから、ないから」という理由付けや見方は決してしていません。大人が感じている、この「障害がある」「障害がない」というフィルターをいとも簡単に取り去ることのできる幼児期にこそ、本当のインクルージョンの姿がある。このことを子どもたちが語りかけてくれているような気がします。



多様性を認め合うことができる環境を創造していくこと。一人ひとりが違っていて当たり前であり、障害のある、なしは全く関係ありません。その子その子でいることが何より大切なことなのです。「一人ひとりの存在を大切にし、互いを認め合う」この当たり前のことを当たり前に行うことが、人間関係が希薄化しつつある現代社会においてとても難しいことだと感じています。だからこそ私たちは、人格形成の大事なこの幼児期に、インクルージョンという言葉の意味を正確に捉え、子どもたちのこころを大切に育んでいくことが必要なのです。

インクルージョンという言葉の大ききゆえにゴールはそう簡単に描けるものではありません。課題はたくさんありますが、それでも少しずつ、今年よりは来年、来年よりは再来年と実践を積み上げること、ガゼル版インクルージョンを築いていきたいと思っています。ガゼルの森に通う子どもたちと保護者の方々、そして地域の方々とともに一歩一歩、歩んでいきます。子どもたちのこころからの健やかな成長を願い、差別や偏見のない社会、そして、相手を思いやり、一人ひとりの存在を大切に



ガゼルの森の概要

児童発達支援センターと保育園の複合施設として、平成24年4月に開園。地域の子育ての拠点として、現在200名を超える子どもを受入れている。

インクルージョンとは…

「共生社会」と訳されることが多く、障害のある、なしに関わらず、誰もがともに地域で支えあいながら生きる社会を目指すという考え方。障害者の関わる権利に関する条約の批准に伴い、近年注目を浴びている。

ガゼルの森 保育部

〔保育園〕定員150名
〔地域子育て支援センター〕1日約20組、年間4000名ほどの地域の方々が利用。
〔一時預り保育事業〕定員6名

ガゼルの森 支援部

〔児童発達支援センター〕定員50名
〔親子通園〕登録30名
〔並行通園〕登録120名
〔保育所等訪問支援事業〕
〔障害児相談支援事業所〕

10th Anniversary

ご支援・ご協力 ありがとうございます

(平成26年10月1日～平成27年3月20日)

敬称略・順不同

花ぼうろ

藤枝市
焼津市
島田市
町内会様 ほか

合計103ヶ所

施設外就労・施設外支援

(株)アイテック
(株)ジャレード
(株)ソニーDADCジャパン
殿村食品(株)
中野倉庫運輸(株)静岡支店
レック(株)

合計6ヶ所

パン販売

島田市役所
平成記念病院
藤枝明誠高校
藤枝特別支援学校
まんさいかん

合計5ヶ所

古紙回収

〈新規サポーター〉
小林製作所
成島鉄筋工業
聖稜リハビリセンター
チャームアップ
富士葬祭
ナルサワ住宅設備
ホンダカーズ島田東町店

ホンダカーズ島田初倉店
中央防犯
増井プロセス工業所
佐藤工業所
タイヤマン藤枝東
杉山精機
杉山精機 第2工場

企業サポーター・個人サポーター
合計164ヶ所

寄付

豊田地区
地域福祉実践推進委員会
ハルモニア後援会
青島 克郎様
赤堀 信夫様

10th Anniversary

Welcome!

ハルモニア ホームページ!



ハルモニア TOP ページ



ガゼルの森 TOP ページ

是非ホームページにも
アクセスしてください!

ハルモニア

検索

<http://www.harunia-fujieda.com>

編集後記

- ハルモニアの熱い想いを伝えたい!という一心で編集に携わりました。法人設立10年を振り返り、これまでハルモニアを支えてくださった、ご利用の皆様、ご家族、そして地域の方々のこころの温かみを感じました。
- ハルモニアを支える全ての皆様、ご協力ありがとうございました。「感謝の気持ちを写真で伝える」をテーマに取材、写真撮影に携わりました。写真に写る皆様の笑顔から温かみを感じて頂けると嬉しいです。これからも共生社会の実現に向けて歩み続けます。
- 10周年記念号にて、今まで支えてくださった皆様への感謝の想いと、さらに進化し続ける意気込みを感じていただけたら幸いです。

《発行》

社会福祉法人 ハルモニア

〒426-0066

藤枝市青葉町2丁目11-1

Tel : 054-637-2111

Fax : 054-634-0031



広報ハルモニア 2015.3 第16号